

東日本大震災中央子ども支援センターとは

被災地の中長期にわたっての子どもの支援ニーズに対応し、必要な心のケアの専門家等の派遣や支援体制の構築のために、厚生労働省の要請を受けて、2011年10月に社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所内に「東日本大震災中央子ども支援センター」を設置しました。

福島窓口について

東日本大震災中央子ども支援センターの福島現地窓口として、現地ニーズの把握や必要な支援に取り組んでいます。NPO法人ビーンズふくしまが委託を受け、福島県と協働しながら事業を実施しています。



東日本大震災 中央子ども支援センター 福島窓口

〒960-8068

福島県福島市太田町 14-3 尾形米穀店 2F
TEL 024-573-0150 / FAX 024-573-0151

【郡山サテライトオフィス】 〒963-8022
福島県郡山市西の内 1 丁目 25-2 2F
TEL 024-983-9481 / FAX 024-983-9482

MAIL info-ccscd@beans-fukushima.or.jp
WEB <http://ccscd.beans-fukushima.or.jp/>
FB <http://www.facebook.com/ccscd.fukushima>

東日本大震災 中央子ども支援センター 福島窓口



Central Child Support Center
of The Great East Japan Earthquake
in Fukushima



福島県 委託事業
運営受託 NPO 法人ビーンズふくしま

県内・外避難者支援

県内外での避難生活において「それぞれの地で、安心して元気に子育てできる環境づくり」を応援します。

主に比較的、支援が届きにくい、自主避難されているご家庭にスポットをあてて、支援をしています。

避難者数の現状

県外避難 :55,610人
(H.25.4 復興庁調べ)
県内避難者:約 10 万人
合計 :約 16 万人

山形・新潟・関東・宮城などの支援団体と連携を取り、避難家庭のニーズに合わせた支援を展開しています。

- 避難先で集う場「ふくしまママサロン」
- 託児付きリフレッシュ講座
- テーマを決めたグルーptーク「ママ話会」
- 個別相談 など



県内子育て支援

■県内支援者向け研修
福島県の子育て支援者のための研修を実施します。

■H.25 年度研修実施予定■

- ・ NP ファシリテーター養成研修
- ・ CAP スペシャリスト養成講座
- ・ コモンセンスペアレンティング研修



研修を通じて、
地域の子育て力
向上を目指します。

■県内子育て支援

県内の子育て支援センターや子育て支援団体の皆さんと連携して、避難先から福島へ戻ってきたお母さん達が集うサロンを開催します。

- 福島市、郡山市で毎月開催します。(6月～)
- 白河、会津、いわきでも開催予定です。
- テーマを決めたグルーptーク「ママ話会」や親子で楽しめるイベントなども開催予定です。



専門職派遣事業

県内において、子どもを育てる家族が過ごしやすくなるように専門職の先生を市町村事業に派遣しています。

派遣実績

- 臨床心理士
...乳幼児健診相談等
- 運動指導士
...室内遊びの指導等
- ヨガ指導者
...リラクゼーション指導等
- 保育士
...子どもの見守り等



■東日本大震災中央子ども支援センター福島窓口 Web サイト

<http://ccscd.beans-fukushima.or.jp/>
支援者の皆さんへ伝えたいお知らせや、福島窓口の活動レポートを配信しております。



■ふくしま結ネット

<http://yui.net.beans-fukushima.or.jp/>
(Twitter)<https://twitter.com/fyui.net>
県内外へ母子避難された方を対象とした健康、福祉、交流会等の支援情報を扱うポータルサイトです。



※スマートフォン・携帯電話対応



—ふくしまと避難先を結ぶ—
ふくしま結ネット

情報発信

避難生活で必要な情報、
ここに集まっています。
情報でふくしまと避難先を結ぶ
ふくしま結ネット。



ふくしま結ネット

検索

<http://yuinet.beans-fukushima.or.jp/>
(PC、スマートフォン、携帯電話共通)



—ふくしまと避難先を結ぶ—
ふくしま結ネット



—ふくしまと避難先を結ぶ—

ふくしま結ネット

『ふくしま結ネット』は福島県から福島県内外に避難されている方と福島県を「情報」で「結ぶ」Web サイトです。

ふくしま結ネット Q&A



Q.
どのような情報を
発信していますか？

A. ふくしま結ネットは母子避難されている方を主なターゲットとしております。生活に有益な下記のような情報を発信しております。

- ・健康診断や予防接種などの健康、福祉情報
- ・避難生活のこれからを考えるうえで重要な生活、補助、支援情報
- ・避難先地域での交流会や相談会などのイベント情報
- ・福島県内の子育て環境情報

A. ふくしま結ネットはスマートフォン、携帯電話にも対応しております。新着記事は Twitter による配信も行っております。

Q.
パソコン以外からも
利用できますか？

ふくしま結ネット Twitter アカウント
@fyuinet
<https://twitter.com/fyuinet>



Q.
その他、どのような
特徴がありますか？

A. 必要としている情報にたどり着きやすくするため、情報を整理、ナビゲートします。他にも下記のような特徴があります。

- ・全国の連携団体から得られた有益な情報を扱います。
- ・ご覧いただいた情報と似ている、関係ある情報もご案内しています。
- ・特定の政治思想や活動が含まれる情報は掲載しません。



ままカフェ @ ふくしま

*Welcome to
Mama cafe @fukushima*

ままカフェ第2クールがスタートします！
スタッフやママどうして
“ほっこり” おしゃべりしませんか？

久しぶりの福島での生活の事や、お子さんの事、ママ自身の事も含めて、
みんなでおしゃべりしませんか？
お子さんにはたくさんのおもちゃを、
ママ達には美味しいお茶とお菓子ををご用意して待っています。
いつ来ても、いつ帰ってもOK！
申し込みもいりません。
お気軽にお越しくださいね♪

- 日程 9月20日（金）10:00～12:00
 10月25日（金）10:00～12:00
 11月22日（金）10:00～12:00
 12月20日（金）10:00～12:00
- 場所 福島市保健福祉センター 3F
 和室会議室
- 参加費 無料

東日本大震災中央子ども支援センター 福島窓口

福島県福島市太田町 14-3-2F 中央子ども支援センター内
TEL: 024-573-0150 FAX: 024-573-0151 E-mail: info-ccscd@beans-fukushima.or.jp
<http://ccscd.beans-fukushima.or.jp/> ※この事業は、福島県の委託を受けて実施しております。

ふくしま
会場案内



福島県福島市森合町 10-1

【バス利用】

「保健福祉センター前」下車

【駐車台数】

駐車場収容台数約 150 台

ます。

【主催】

福島県／東日本大震災中央子ども支援センター 福島窓口

【協力】

福島市子育て支援センター連絡会／福島市健康推進課

久しぶりの福島での生活の事や、お子さんの事、ママ自身の事も含めて、
みんなでおしゃべりしませんか？
お子さんにはたくさんのおもちゃを、
ママ達には美味しいお茶とお菓子ををご用意して待っています。
いつ来ても、いつ帰ってもOK！
申し込みもいりません。
お気軽にお越しくださいね！

ままカフェ @ こおりやま

*Welcome to
Mama cafe @ Kooriyama*

ままカフェ第2クールがスタートします！
スタッフやママどうして
“ほっこり” おしゃべりしませんか？

日時 9月12日（木）10:00～12:00
10月10日（木）10:00～12:00
11月14日（木）10:00～12:00
12月12日（木）10:00～12:00

場所 特定非営利活動法人
子育て支援コミュニティプチママン
福島県郡山市富田町大徳南 2-23

参加費 無料

東日本大震災中央子ども支援センター 福島窓口

福島県福島市太田町 14-3-2F 中央子ども支援センター内

TEL: 024-573-0150 FAX: 024-573-0151 E-mail: info-ccscd@beans-fukushima.or.jp

<http://ccscd.beans-fukushima.or.jp/> ※この事業は、福島県の委託を受けて実施しております。

ままカフェ @ こおりやま 会場案内



特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ プチママン

福島県郡山市富田町大徳南 2-23
Tel: 024-983-1925

【バス利用】

福島交通「希望ヶ丘」より徒歩1分

【駐車場】

有り

【主催】

福島県／東日本大震災中央子ども支援センター 福島窓口

【協力】

特定非営利活動法人子育て支援コミュニティ プチママン

東日本大震災中央子ども支援センターの設置規定

1 目 的

東日本大震災中央子ども支援センター（以下「センター」という。）は、東日本大震災により甚大な被害を受けた被災地の子ども達の健やかな成長を支援するため、被災地の主体性を尊重しつつ、以下の活動を行うことを目的に設置・運営する。

- ・東日本大震災の被災地域における子どもの支援ニーズを把握する。
- ・被災した子どもの成育を支援する。
- ・被災によって生じた子どもの心身の問題を軽減するための支援を行う。
- ・被災した子どものいる家庭を支援する。
- ・被災した子どもの保育・教育・成育・保健・ソーシャルワーク・医療等に携わる者の支援を行う。
- ・被災した子どもと家庭を支援する者のサポートを行う。
- ・被災した子どもと家庭、および地域に関する情報の集約、蓄積及び分析を行う。

2 設置場所及び期間

センターは、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所に設置する。
設置期間は、平成28年3月末日迄とする。

3 組 織

センターには、業務を統括するセンター長を置く。

センターの事務局は、日本子ども家庭総合研究所に本部事務局を置き、岩手県、宮城県、福島県等に現地事務局を置く。

センターには、東日本大震災中央子ども支援センター協議会を置く。

4 業 務

(1) 本部事務局

- ・東日本大震災中央子ども支援センター協議会を運営する。
- ・現地事務局を通じて子どもの支援ニーズを把握する。
- ・支援ニーズに基づき、被災した子どもと家庭を支援するための専門職の派遣等、調整を行う。
- ・被災した子どもの保育・教育・成育・保健・ソーシャルワーク・医療等に日常的に携わる者に対する研修、講習等の技術的サポートを行う。
- ・被災した子どもと家庭に関する情報の集約、蓄積及び分析を行うとともに、取り組みの指針を示す。

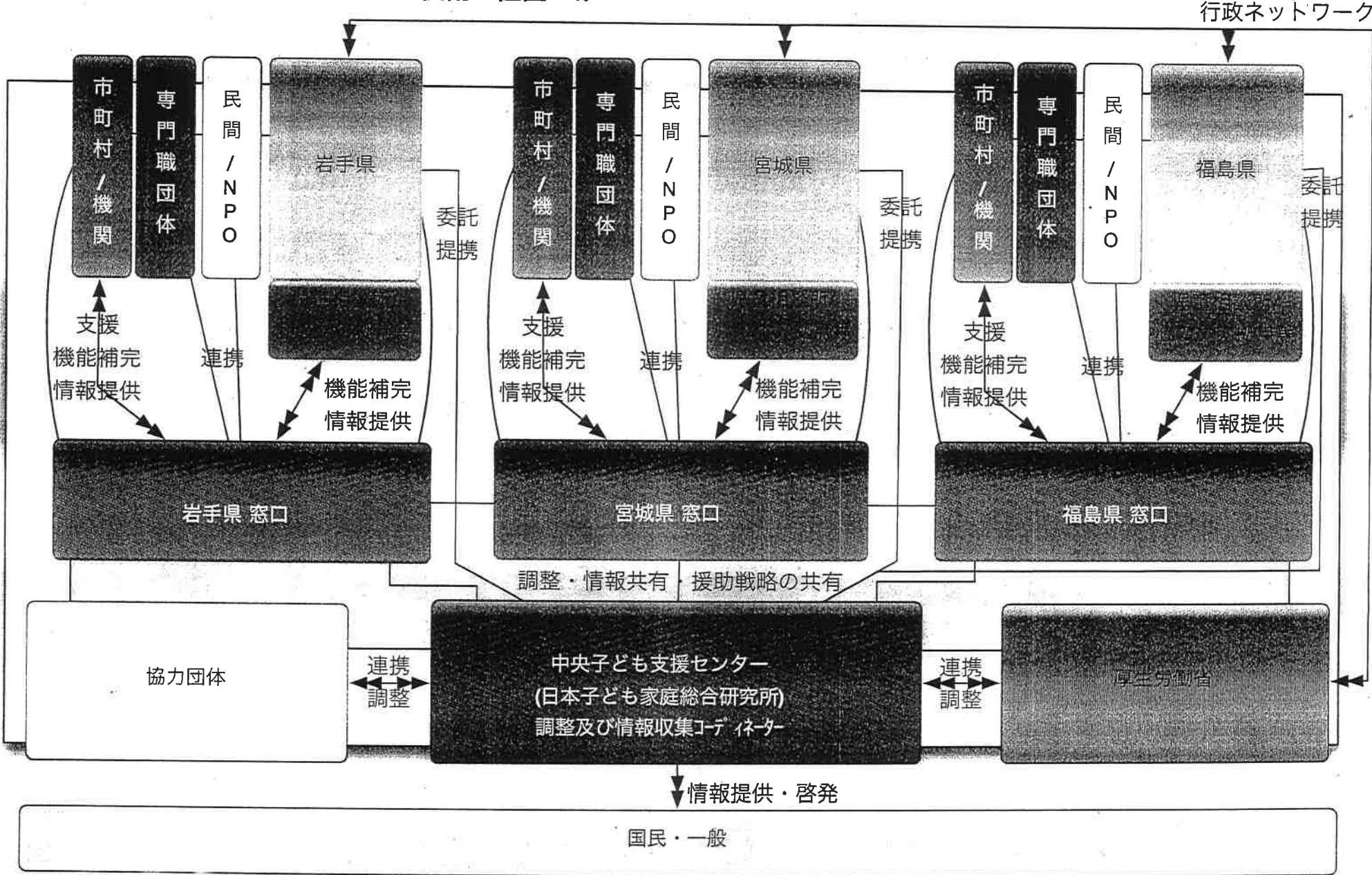
(2) 現地事務局

- ・被災した子どもと子育て家庭に関する情報の集約を行い、本部事務局に送付するとともに本部からの依頼に応じた情報収集に努める。
- ・各自治体との密接な連絡・調整を行う。
- ・子どもの支援ニーズの確認を行い、専門職の派遣を本部に要請するとともに、適確な支援を提供するための現地調整を行う。
- ・派遣された専門職が円滑かつ効率的に活動できるよう、現地での活動調整を行う。
- ・被災した子どもの支援に携わる者を対象に地域ニーズに合わせた研修、講習会等を開催する。
- ・被災した子どもと子育て家庭を支援する者のサポートを行うため、専門職等による相談支援活動の調整を行う。

5 国との連携・協力

センターの運営に関しては、厚生労働省と連携・協力し、その支援を得て行う。

東日本大震災子ども支援センターの役割と位置づけ

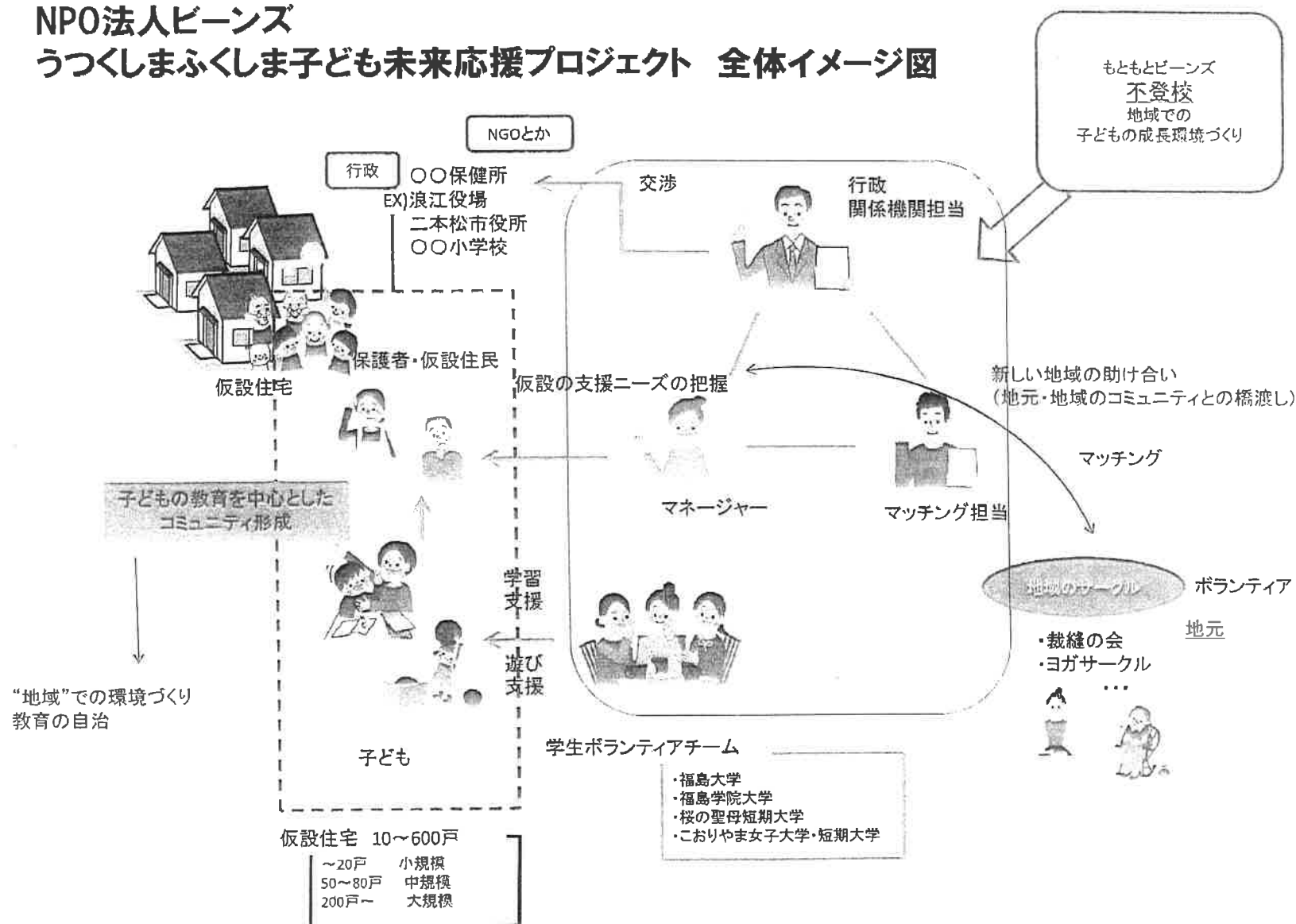


東日本大震災 中央子ども支援センター工程表(案) ※各都道府県からの要請により随時更新予定

	体制				ネットワーク・広報				GIS			相談・支援体制									
	事務局体制	現地窓口	協議会	協力団体	ホームページ	メーリングリスト	メールマガジン	テレビ会議システム	GIS通告システム	GISによるニーズ把握システム	GIS情報共有システム	メール相談	電話相談	派遣人材確保	研修	グリーフケア	遊びの巡回指導と心理相談	屋内活動の困難な地域での屋内、屋外活動の提供	栄養相談	保健相談	
平成23年度	・体制の拡充(12月から年度末にかけて専従の事務局従事者を2年の期限付採用。更新可。保健・医療1名、ソーシャルワーク1名)	・安心子ども基金による各県からの委託内容により体制の拡充(12月から年度末にかけて専従者を2年計画で期限付採用) ・現地で他の団体との協力体制の充実	・協議会のコアメンバー会議参加メンバーの確定(11月) ・コアメンバーメーリングリスト作成(11月) ・コアメンバー用情報共有サイトの作成(1月)	・協議会参加メンバー、参加していないメンバーを含めての課題別委員会の設置(12月～3月)	・中央子ども支援センターHP(12月) ・協議会加入メンバー用HP(1月) ・行政機関向けHP(1月)	・協議会加盟団体向けメーリングリスト(11月中に第1報を発出)	・協議会加盟団体向けメールマガジン(事務局編集、12月中に第1報発出)	・案を作成(12月) ・簡易システム運用開始(1～3月)	・民間団体、子どもの居場所等から通告(児童相談所)や支援要請(医療機関、治療施設)できるフォーラムの設置(1月) ・通告システムで使用する項目、指標の作成(11～12月)	・GISによる地域のニーズ等の把握に必要な項目の検討(1月) ・可能な範囲でのGIS試行(手に入る情報から:11月～3月)	・行政、および協議会参加団体と共有すべき項目の検討(12月、コアメンバー会議にて) ・可能な範囲での試行(手に入る情報で共有すべきもの:1月～3月)	・メールによる相談体制の検討(11月) ・課題別の協力団体の募集(11～12月:主として子どもの心の問題、未成年後見制度、子どもからの連絡等) ・簡易的なメールによる相談システムの設置(11～12月)	・既に実施している団体の現状を把握	・派遣人材として必要な職種、専門職、内容の検討(12月) ・派遣人材リストの作成を協議会参加メンバーに依頼(2月)	・これまで各団体が実施した研修の流れと分類を把握(12月) ・必要な研修の想定(現場レベル・全国レベル)(12月～1月)	・協議会参加団体等の実績把握と協力者リストの作成(11月) ・グリーフケアを進めるためのセンターとしての方向性の検討(12月)	・協議会参加団体等の実績把握と協力者リストの作成(11月) ・ニーズ把握の方法を検討(12月)	・協議会参加団体等の実績把握と協力者リストの作成(11月) ・ニーズ把握の方法を検討(12月)	・協議会参加団体等の実績把握と協力者リストの作成(11月) ・ニーズ把握の方法を検討(12月)		
平成24年度	→	→ (ただしその時々状況に応じて変化)	→ (ただしその時々状況に応じて変化)	→ (ただしその時々状況に応じて変化)	・国民向け情報提供サイトHP(5月) ・協議会加入メンバー用HP拡充(GISリアルタイム更新機能の実装:5月) ・行政機関向けHP拡充(GISリアルタイム更新機能の実装:5月)	→	→ ・国民向けメールマガジン作成	・運用開始(4月) ・運用の検証(10月)	→	→ ・リアルタイム更新機能の実装(8月) ・運用の検証(10月)	→ ・リアルタイム更新機能の実装(8月) ・運用の検証(10月)	→ ・相談経過を追うことができる機能の検討(4月) ・相談経過を追うことができる機能の実装(5～8月) ・運用の検証(10月)		→ ・派遣人材リストの随時更新	→ ・研修内容の試行実施(後半)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)		
平成25年度	→	→ (ただしその時々状況に応じて変化)	→ (ただしその時々状況に応じて変化)	→ (ただしその時々状況に応じて変化)	・HPIによる情報提供の検証	→	→	→ ・運用の検証(10月) ・システムの修正(1月)	→	→ ・運用の検証(10月) ・システムの修正(1月)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)		→ ・派遣人材リストの随時更新	→ ・研修内容の試行実施(後半)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)	→ ・運用の検証(10月)		

NPO法人ビーンズ

うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト 全体イメージ図



笑顔と元気があふれる学習の場所を作りたい～ビーンズふくしま 仮設住宅 学習支援～



▲学習支援の子どもたちとスタッフの新山伸一さん

福島市にある佐原仮設住宅で行われている学習支援の活動をご紹介します。

この活動は、原発事故の影響で避難生活を送っている子どもたちを対象として行っており、学習や遊び、季節のレクリエーションを通して、子どもを中心とした地域コミュニティの再生を目指しています。

学習支援は、福島市の旧佐原小学校応急仮設住宅としてのふ台応急仮設住宅、二本松市の安達運動場応急仮設住宅、三春町にある三春の里応急仮設住宅の4か所で行われており、仮設住宅に住む子どもだけではなく、周辺の借り上げ住宅に住む子どもも受け入れています。通常は、子どもたちが宿題や自主学習を進め、質問したい、または分からなくなった場合に、スタッフといっしょになって勉強するというスタイルをとっています。

学習時間は小学生が17:00～18:30、中学生は18:30～20:00の時間帯（三春の里仮設を除く）で学習しており、どちらも1時間を過ぎたあたりで、「おやつ時間」を取っていて、学習だけではなく、おやつを通して、子どもたち同士が触れ合い、笑顔になれるように配慮されています。

学習支援以外にも、季節に合わせてレクリエーションを企画し、子どもたちだけではなく、保護者や仮設住宅の住民とのコミュニケーションを行い、その都度、大学や企業との連携や協力をしています。

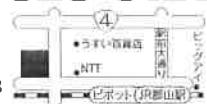
学習支援を受けている子どもたちは、素直で元気な子たちが多く、賑やかな雰囲気の中ながらも、集中するときは静かに課題に取り組んでいます。分からないところは、スタッフや学生に質問し、いっしょになって勉強しています。



今回、学習支援に参加した学生（桜の聖母短期大学の学生）は、「最初は、子どもたちと接するうえでとまどいや不安がありました。しかし、最近では子どもたちが笑顔で話しかけてくれたりして、活動するごとに子どもたちから元気をもらっています」と話してくださいました。

仮設住宅の子どもたちは、家のスペースが狭く、遊ぶようなところもあまりないところで生活しているため、週に1～2回友達といっしょになって、勉強したり、楽しんだりするこの時間が貴重なものであるように感じられました。スタッフが少ないために活動が限られているので、活動範囲や回数を増やしていくために近隣の大学生や社会人などの皆さんにもぜひ協力していただきたいです。





0

ツイート 1

いいね! 1

[みんなへ共有](#)

被災地からのメッセージ

2013年7月24日公開

子ども達と共に歩み、
一歩ずつ、少しずつ、未来へ

NPO法人「ビーンズふくしま」を訪ねて

赤い羽根 災害ボランティア・NPO活動サポート募金(ボラサポ)第5次中長期助成団体
※ ボラサポの助成金の一部に、チャリティホワイトの寄付金が使われています。



雨の日が続く7月の東北。一面に広がる田んぼの稲穂には雨露が残り、緑が一層輝きを増している。その間をくぐり抜けた小高い丘に、プレハブの家々が並んだ町がみえた。夕方になると、どこからともなく子どもたちが集まって来て、笑い声がこだまする。顔見知りのお兄さんお姉さんを見つけると追いかけっこが始まって、「時間ですよ」のかけ声とともに、皆一斉に町の中心にある集会場へと向かって行った。

子どもの支えとして、ふみだした一歩

顔見知りのお兄さん、お姉さんの正体は、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難生活が続く仮設住宅にて、子どもたちの放課後学習指導にあたるNPO法人『ビーンズふくしま』のスタッフたちの姿である。現在、今回おじゃました福島県二本松市の仮設住宅に加えて、全7ヶ所の仮設住宅での支援をおこなっている。

『ビーンズふくしま』の活動は、多岐にわたり、県の中心部、中通りと言われる地方を中心に、様々な問題に直面する子どもたちの支援を長年にわたり続けてきた。発足より14年を迎え、不登校やひきこもり、ニートといった状況が、大きな社会問題となった頃から、たくさんの若者たちと真剣に向き合ってきた。

有志3人で始めた活動も、現在は40名のスタッフを抱え、フリースクール、心の不安を個別で相談できる部門や、職業支援なども行っている。



仮の住まいの暮らしが、日常になりつつある。

「学習指導とは言っても、最初は、静かにしている事、机に座らない事からの指導でした。二本松市の仮設住宅には、原発事故の避難区域にあたる浪江町の方が暮らしています。混乱の中での避難は、元あったコミュニティを崩し、地域での子育てが難しくなっている状況があります。さらに、住み慣れない家での生活で、親御さんもストレスを抱え、その歪みが子どもへと向かうこともあります。子ども達は心の中を声に出す事は殆どありません。ですので、週に2回の学習指導を通して、彼らの想いを感じ、受け止めてあげるのが私たちの仕事だと思っています」と、スタッフの新山さん。

ちなみに、子ども達に“ししょう(師匠)”の名で親しまれる新山さんは、宮城県在住で片道35キロの通勤を躊躇なくこなす、情熱の持ち主。退職の後の現在、教員としての経歴を活かし、仮設住宅での学習支援全体の指揮官役を担っている。

『ピーンズふくしま』の活動は、震災後は特に、こうした熱きメンバーの想いに支えられてきたのだ。



お勉強前の和みのひととき。



始めは新山さん(師匠)より、本日の説明。



学生ボランティアさんも募られ、大活躍。



中鉢博之さんは、14年前の設立時より運営に携わる。

終わりの見えない避難生活の中で見えてくること

彼らに見守られながら、集会所では、漢字の練習や算数のドリルなど、それぞれの課題を机に広げ、勉強に励む子ども達の姿がある。無邪気な笑顔が印象的で、甘えん坊かつ人懐っこい。取材に訪れた私たちを寛容に受け入れてくれるのは、浪江の穏やかな風土が子ども達にも受け継がれているからだろうか。出会ってまもなく、カメラマンは“ヒゲ男くん”、同行のスタッフは“モヒカン君”とあだ名までつけられてしまう始末だった。

「いわゆる学級崩壊の様な状態の時期もありましたが、今ではだいぶ落ち着きを取り戻しています。挨拶もできますし、靴も上手に並べられるようになりましたよ。年齢が違う子ども達が一緒に学習しますので、下の子の面倒をみたりという関係が築いていけるのもこの特徴です」と新山さん。一方、理事を務める中鉢博之さんは、震災より2年以上が過ぎた現在の苦悩をこう話す。「緊急対応時が過ぎて、生活という視点での継続的な支援が必要となってきています。そういった活動をする上で、特に私たちは、子ども達、親御さん、地域の方々との信頼関係を積み上げていくことが重要になるので、スタッフの育成にも時間を要します。しかしながら、震災に対する世間の関心は薄れつつあり、その中で人員確保や資金維持などの問題は、時間を追うごとに大きくなっていきます」。

複雑に重なり合った課題に向き合い続けていく

集会所の外に出て、辺りを見渡すと、家をぐるりと囲むように置かれたプランターが数多く目に映る。そこに植えられ緑たちは、夏本番を待たずして、トマトや茄子が立派に実りを迎えていた。もの言わぬ植物は、自然溢れる浪江の風景、彼らが育んだ豊かな暮らしの数々、故郷への想いを強く語りかける。それらを受け止めるには、小さなプランターはあまりに窮屈だ。

「長引く避難生活で疲れ果て、ここに暮らす人の力は弱り続けていきます。ゆえに問題は声になることなく、見過ごされていきます。復興住宅、仮の町など、様々な話を耳にしますが、一向に見通しがたないというのがここでの実感です」と新山さんは伏し目がちに話す。

決して平坦ではない復興への道のりにおいて、こうした地域に根ざす『ピーンズふくしま』の取り組みは、その大きな一助を担っている。現在は、仮設住宅での放課後学習指導と個別のカウンセリングを軸に、他団体との連携を計りながら、変化する状況を素早くキャッチできる体制も整えている。



おじいちゃんから手渡されたトマト。



浪江では、10棟のビニールハウスで野菜を栽培していたと教えてくれた。

心の壁に寄り添い、共に歩んでいく

お勉強をひとしきり終わると、お待ちかねのおやつタイムがやってきた。ほっと一息して、じゃれ合いながらお菓子を頬張る様子は、他のどの町の子どもと変わりはない。しかし、彼らが見せてくれ



おどけて見せるとってもお茶目な子どもたち。



子どもたちが駆け寄ると、表情もゆるやかに。

た笑顔の裏では、心の壁が何層も重なり合い、東北人ならではの慎ましさとともに、素顔は覆い隠されてしまう。

そして、この言葉にならない、心の奥に秘められた苦悩と葛藤は、「被災地」という大きな枠によっても曖昧なものへと変っていつてしまうのではないかな。

そこに暮らすひとりひとりと向き合いながら、心の壁を読み解く彼らの姿は、愛に満ち、勇ましくもあった。

施設名となっている「ビーンズ」を日本語に訳せば「豆」となる。豆は、水や土、太陽の光が加わって芽を出し、成長を続けて行く。ひとつの可能性を前に、皆が力を出し支え合うことができたなら、いつか、芽は葉を付けて幹となり、大きな青空へと向かいすくすくと育っていく事ができるのだろう。

NPO法人『ビーンズふくしま』 <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>



宿題や自主学習に励む子どもたち。



靴、上手に並べられたかな？



とっても穏やかな表情で子どもたちに話しかける中鉢さん。



丁寧に手入れされた花壇たち。



学習の後は、それぞれの家へと向かう。



ここに、ひとりひとりの暮らしがある。

取材者紹介



木下真理子

福島県福島市生まれ。福島県内で発行のフリーマガジン「dip」の編集長を創刊より7年に渡り務める。主に同世代向けに、福島での暮らしの楽しさを伝えてきた。3.11をきっかけに、福島の実状をそとに向けて等身大の声として伝えるべく活動始める。2012年2月、会社を退社。現在は、フリーでライターやディレクションの仕事に従事している。

●りんご畑の樹の下で <https://www.facebook.com/gingo.fukushima2012>

取材感想

～取材者として。福島県民として、今感じること。～

福島市に暮らし、自分自身、様々な不安や悩みを抱え暮らしている一方で、もっと根の深い現実的な問題に直面し続けている毎日がありました。それらは、レイヤーのように何層にも重なって、すぐお隣の出来事も、見えにくくなってしまふ様に思います。今起きている様々なことに目を向けていくこと、感じる力が必要なのだと、心を新たにすきかけをいただきました。



チャリティホワイト公式フェイスブック「もっと応援プロジェクト」に寄せられた、東北の皆さまへのあたたいメッセージ、本当にありがとうございました。今回、みなさんの想いを直接お届けするべく、福島へ足を運んで参りました。大空のもと、たくさん笑顔に出会うことができました。



撮影:齋藤政之

[・ これまでに紹介した被災地からのメッセージを見る](#)[・ チャリティホワイト特設サイトトップに戻る](#)

ご意見・感想をお寄せください

お送りいただいたご意見は、当サイトの改善に役立たせていただきます。

お探しの情報は、このページで見つかりましたか？

☐ はい ☐ いいえ

ご意見・感想を入力ください。(100文字程度)

[・ チャリティホワイトに関するよくあるご質問](#) [・ 商標について](#)

©2013 SOFTBANK MOBILE Corp. All rights reserved

私たちの3つの活動！

居場所づくり



子どもが安心して
自分らしくすごせる場
ひとりひとりが尊重される場

子ども
の
居場所

って
どこ？

学びづくり



自己決定からの学び
たくさんの失敗・成功からの学び
多様な経験からの学び

本当
の
学び

って
何？

仲間づくり



共に認め合いながらすごす
仲間との出会い
つながりを実感できる関係

子ども
の
仲間

って
大切。

私たちの活動を支えてくれる
サポーターさんを募集しています

私たちビーンズふくしまの
これらの活動を財政面から支えてくれる
正会員・賛助会員を募集しています。

正会員 年会費 一口3000円 2口～

総会における評決権、会報（年6回）の発送

賛助会員 年会費 一口3000円～

会報（年6回）による居場所の最新情報の配信

特典

ビーンズ応援団

ビーンズふくしまは子どもと共に歩んで、今年で10年目の節目を迎えます。学校文化に慣れることができない子どもが安心して、もう一つの文化を共有しながら学びと交わりの世界を築いてきたこの広場は、子どもや親の心の中で宝石のように輝いています。これからも、真面目でよい子が集えるように、この場を大切にしたいです。そのために、子どもの文化をさらに豊かに、そして励まし合いと育ち合いの暖かい風が吹き渡るように、応援したいと思っています。支援の輪に多くの方が、加わって頂けるようにお願いします。

福島大学行政政策学類教授
境野健児

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
E-mail beans@k9.dionm.ne.jp
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

そこにいる
子は
私たちの
子どもです



私たちの夢に
力をかけて下さい！

NPO法人 ビーンズふくしま
『フリースクール ビーンズふくしま』

子どもを真ん中に思いの芽を伸ばしたい!

学校に行けない、通っているけれど辛い…。そんな子どもたちへ。
学ぶ場所、仲間を作れる場所、安心できる居場所は沢山あったほうがいい。
私たちは、子どもと育つ特定非営利活動法人「ビーンズふくしま」です。
ここには、学びあえる場所、育ち合える仲間がいます。



子どもたちの声



子どもの現状



学校に行けない子、行きづらさを感じている子は家庭にしか居る場所がありません。でも、そこに安心や仲間がなかったら…。

公教育で一人が受けられる教育資金が受けられません。でも…自己負担でしか教育を受ける権利が守られなかったら…。

ほしいのは、
学ぶ場 育ちあえる仲間
安心できる居場所です。

フリースクール ビーンズふくしまってこんなところ



学びいタイム

学校に行けなくても、勉強を教えてくれる人がたくさんいるよ☆

みんなで協力して作る
野外活動☆



キャンプ



花屋Berry Beans

花屋さんも営業中☆
働かって大変だけど、
楽しい事もいっぱい!

10周年も
迎えることが
できました!



9月9日の創立記念



卒業と進級を祝う会

一人ひとりが
成長したことを
みんなで
お祝いします☆

不登校になって
よかったと
思えるように
なりました。
自分の
バックグラウンドを
誇りに思い、
思い出は、
未だに
僕に元気をくれます。



一生続く仲間が
できました。
ケンカできた
ことは思い出に
なるし、
その体験は
社会に出ても
役に
立っています。

一人で家に居たときは、人の温かさを
知らなかったけれど、これまでとは違う
人間関係と出会えました。



どうせ一度世間の波からはずれたのだから、
”自分の波”に乗ることを、社会に触れ、
見つけました。

ビーンズ〇こころの相談室では、不登校や引きこもりの子どもと青年、その家族に対し、心理臨床の立場から専門的な支援を行っています。

□こんなことを感じていませんか？ □当相談室では、こんなことをしています

あなたへ

- ・学校や職場に行けない、行きたくない
- ・人間関係がうまくいかない
- ・社会での生きづらさを感じている
- ・自分のことがよく分からない
- ・気力がわかない、倦怠感がある
- ・感情のコントロールができない
- ・外に出るのがこわい



継続面談

◇来所相談

来談していただき、ご本人、またはご家族と継続的に会います。ご本人が来談できない場合は、ご家族のみでご相談もいたします。

◇訪問相談

本人の来談が難しい場合には、ご自宅に伺い、ご本人と継続的に会います。



ご家族の方へ

- ・子どもとの関わり方が分からない
- ・子どもの将来が心配
- ・子どもの発達が不安
- ・家族関係に悩んでいる
- ・家族が孤立している

家族支援

ご家族を対象にグループカウンセリングやワークショップ等を行っております。

*日程などの詳しい内容についてはお問い合わせ下さい。

面談室

4つの面談室があります。



相談に来られる方の専用玄関があります。



●電話番号

まずはお電話でお問い合わせ下さい。

☎ 024-563-6255

●相談受付時間

10時～17時(月～土曜日)

●対象の方

小学生から35歳程度の方、またはその家族

●ご利用料

	スタッフ	料金
インテーク面談	臨床心理士	1時間につき 8,400円
受付面談	精神保健福祉士	1回につき 3,150円
来所面談	臨床心理士	50分間につき 5,250円～4,200円
訪問面談	相談員	50分間につき 6,300円～5,250円

- 料金は税込表示となります。
- 訪問相談については、交通費が別途かかります。
- 健康保険は適用できません。

ご利用に際して

- 当相談室の継続相談にあたっては、NP0法人ビーンズふくしまの正会員に会員登録(年会費3000円)していただきます。
- プライバシーは厳守いたします。
- 当相談室は医療機関ではありません。
- 医療的なサポートが必要な場合には、適切な医療機関をご紹介します。

NP0法人ビーンズふくしま

当相談室は、NP0法人ビーンズふくしまのフリースクール、青年自立支援事業(地域若者サポートステーションなど)と協働しております。



こころって 何でしょう？

みえないし、においもしませんが、
ひとは、それがあつたことを
誰しもが しているのです。
たいせつに、向き合うことを
してみませんか

ひとりひとりのつながりを大切に、
あなたにそつた歩調でお会いします



- 住 所 : 〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5
- 電話/FAX : 024-563-6255
- W E B : <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
- 行 き 方

電 車

JR福島駅下車 西口から徒歩10分。イトーヨーカドー前を100m南に進み、T字路を右折。すぐ先のT字路を左折して約200m先、右手。

お 車

- 福島駅東口方面から…
こむこむ南のガードをくぐり、4つ目の交差点(T字路)を左折して約200m先、右手。
 - 福島駅西口および八木田方面から…
福島県保児保育所を川沿いに進み、岳陽中学校を越え、2つ目の十字路を左折して約100m先、左手。
- ※ 駐車場をご利用希望の方は事前にご連絡ください。

会員募集

私たちビーンズふくしまのこれからの活動を財政面から支えてくれる正会員・賛助会員を募集しています。

正 会 員:年会費 一口3000円 2口から
賛助会員:年会費 一口3000円 1口から

ひとりじゃないんだ
ってことを知ってほしい

ビーンズ のこころの相談室

こおりやま若者サポートステーション

「若者サポートステーション」は厚生労働省による若者の就労支援を目的とした事業です。

地方自治体や地域の若者支援機関と連携した包括的支援の窓口として、無業の状態にある若者とその保護者に対し、専門的な相談、各種プログラム、職場体験、地域ネットワークを活用した支援など、多様な就労支援メニューを提供しています。

地域のさまざまな関係機関と連携して、
若者の職業的自立をサポートします。



地域の事業所のみならずへ

こおりやま若者サポートステーションでは、若者の支援を行っていくために、趣旨にご理解いただき共に若者を支援して下さる事業所を随時募集しています。

若者が思う存分はたらける社会づくりにご協力をお願いします。

こおりやま若者サポートステーション

Tel: 024-954-3890

開所日: 月・火・水・金・土 11:00~17:00

休所日: 木・日・祝祭日・年末年始

利用料無料

※各種講座に参加される場合は教材費等実費をいただく場合があります。

対象: 15歳から概ね40歳までの若者とその保護者など

〒963-8025

福島県郡山市桑野1丁目4-7第2光コーポ1F

Fax 024-954-3891

Web <http://www.ko-riyamasapo.org/>

Mail ko-riyamasapo@ninus.ocn.ne.jp



運営委託 NPO法人ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F

TEL/FAX 024-563-6255

Web <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

Mail beans@k9.dion.ne.jp

不登校・引きこもりの若者とその家族への支援活動をしています。



若者の職業的「自立」を支援します!

こおりやま 若者サポート ステーション

「はたらきたい」

「はたらくための準備をしたい」

でも、何からどうやって

始めたらいいかわからない。

若者サポートステーションは、

そんな若者たちが

一歩をふみだす出発地点です。

厚生労働省 委託事業

運営委託 NPO法人ビーンズふくしま

4.目標達成!

- ・就職
- ・進学
- ・職業訓練学校 などなど...

新しい世界に一步踏み出そう!



3.支援プログラム

目標設定を行い、3つのステップであなたの目標をサポートします。
右の内容の他にも、
スポーツの時間や、
各種講座もあるよ。



2.初回面接

サポートステーションのご案内と、今
思っていること、将来についての希望
や悩みなど、専門の相談員がみなさん
の想いをお聞きます。

スタート!

1.まずは相談予約をしよう!

だれにでも始めの時はあるよ!



Tel: 024-954-3890

は
た
ら
く
た
め
の
準
備

【ステップ3:キャリア相談】

専門のキャリア相談員による個別の就職
相談です。職業適性検査の結果をもとにし
た職種の選定、職業研究、履歴書や職務経
歴書の作成、求人検索、ハローワークや郵
便局への同行、本番を想定した面接練習、
資格講座の紹介など、個々のニーズや段階
に応じた取り組みを行います。就職・進学な
どのゴールに向けて、最後の1歩をあと押
させていただきます。



【ジョブトレーニング・ボランティア】

就職活動やキャリア相談と並行して、ジョ
ブトレーニングや、ボランティアなどと
合わせて利用することをお勧めしてい
ます。
安定した生活リズムを維持することが
でき、「長期トレーニング経験」を履歴
書にアピールできるチャンスです。
サポートステーションでは、地域のたく
さんの事業所の協力を得て、訓練生を
受け入れていただいています。

【ステップ2:スマイルサービス】

生活改善プログラム終了者が行う、ジョブトレーニング型プログラム。
地元商店に通い、掃除や商品陳列等の作業を行います。朝礼・終礼での作業の
確認や振り返り、事業主との「報連相」の重要性、同じ訓練生との連携など、仕
事を円滑に行うための基礎的なビジネスマナーを体験できます。
就職活動を行う準備として、職業イメージの獲得にぴったりのプログラムです。



【ステップ1:生活改善プログラム】

「決まった時間に決まった場所に通うこと」を目標にした通所プログラム。
タイムカードで、出勤気分を味わいながら、資格取得や自主学習を応援します!
朝の会・帰りの会では、簡単なスピーチやゲームなどで他の参加者と交流を楽しむことができます。
「何から始めたらいいのかわからない」という人が最初の一步を踏み出すためのプログラムです。

連携機関のご案内

相談内容や相談者の状態によりましては、適切な医療・保健・福祉・教育施設等、
さまざまな支援機関をご紹介します。

ふくしまピアサポートネット

*この事業は、福島県が行う青少年総合相談支援事業の一つである「ピアカウンセリング事業」について、ビーンズふくしまが運営を受託し実施するものです。

「ピアカウンセリング事業」は、様々な悩みを抱える青少年に対して、同世代の者(ピア)同士による交流等を通して、社会的自立を促進することを目的としています。

一緒にはじめてみませんか

ひとりでは不安なことも、
“誰か”とだったらできるはず

若者同士の交流会・ボランティア活動

もう少しつながりを広げたい、何か今自分にできることを始めてみたい、そんなはじめての一步を踏み出したい人の活動の場所です。

(対象:概ね15歳~40歳位)

震災ストレス、孤立感、就職・就学についての悩みなどを抱える方)

福島県内各地で実施します

悩みもあるけど
仲間もいる。

一緒に
一歩前へ...

地域の人との交流

様々な活動を通して、地域の方々と交流してみませんか。

保護者同士の情報交換

主に保護者の方を対象に、お互いの体験談や対処法などについての情報交換の場です。正解を見つけることがゴールではなく、お互いの気持ちを支えあう場です。

(対象: 青少年の保護者)

お問い合わせ

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

住所: 福島市矢剣町22-5

TEL 024-563-6255

FAX 024-563-6223

URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

お問い合わせ受付: 月~土曜日 10:00~17:00 (日曜・祝日・お盆・年末年始休み)



まずはお問い合わせください

受付面談の日程を決めます。

受付面談

プログラムのご案内と、現在の状況などをお伺いします。
必要やご希望があれば、他のサポート機関をご案内します。

* 医療機関受診中の方は
医師の意見書が必要です

プログラム利用スタート

受付面談時に決めたスタート日からプログラムに参加できます。

Q.ピアサポートって何？

A.ピアは、「仲間」や「同僚」という意味で、同じ時間を共有したり、同じ立場であることを指します。
ピアサポートは、同じような悩みなどを経験した人が、対等な立場で仲間（ピア）同士支えあうことです。



Q.自分はこのプログラムに合うのかな？

A.まずは、お問い合わせください。お話を伺って、必要やご希望があれば、他のサポート機関をご案内します。このプログラムには様々なサポート機関がつながってネットのようになっています。まず、どこかのドアを叩いてみる、そこがはじめの一歩です。



Q.いつからでも始められるの？

A.若者同士の交流会・ボランティアは、スタートの時期が決まっています。受付面談時にスタートの時期が決まります。なお、保護者同士の情報交換会はどの回からでも参加できます。詳しくはお問い合わせください。



Q.お金はかかるの？

A.参加費は無料です。
ただし、プログラムを体験するのにかかる実費（材料費等）や、安全保険代は負担していただきます。

【各地域での開催予定】 各会場概ね8回実施。1回2時間程度のプログラムを行います。
詳細についてはお問い合わせください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
県北		福島会場									福島会場	
県中				郡山会場								
県南										白河会場		
いわき							いわき会場					
相双										相双会場		
会津・ 南会津							会津会場					